

1. 東北クルーズカンファレンス

1-1. カンファレンス（第1回）

- 1) 日 時 令和3年9月15日（水） 13:30～16:00
- 2) 会議方式 web 会議方式
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 44名
- 4) 内 容

東北のクルーズ振興を目的として、コロナ禍における安心で安全なクルーズ寄港の再開に向け、クルーズ業界を取り巻く諸情勢や船社や関係者による安全対策等について講演及び意見交換等を行った。

始めに、東北クルーズ振興連携会議の事務局を代表して、東北地方整備局木本港湾空港部長から挨拶を行った。続いて、東武トップツアーズ（株）濱野氏、シルバーシー・クルーズ社の糸川氏からコロナ禍におけるクルーズの状況や今後の見込みなどをランドオペレーターと外国船社の立場から講演いただいた後、東北での地域在住の通訳案内士の活用の可能性や、外国船社の外国でのクルーズの運航状況などについて、意見交換・情報交換が行われた。最後に、東北経済連合会小野常勤顧問が挨拶を行い閉会した。

演題：『ウィズ・ポストコロナに向けたクルーズ商品造成・受入体制強化への取り組み』

講師：東武トップツアーズ（株）
営業部長 濱野 一哉 氏

要旨：邦船クルーズが再開し、ランドオペレーターとして寄港地観光を運行している。現状の寄港地観光は、安全・安心を担保できる観光地を限定して運行している。コロナ禍においても、船社とクルーズ客のニーズを理解しながら、安全・安心を確保しつつ、地域の方と連携しながら魅力ある観光地のツアー造成をおこなっていかねばならないことを実感している。

今後一つの素材として、他国にはない、自然の魅力がある国立公園というものを絡めていく商品造成も一つのアイデアと思っている。観光地の魅力をクルーズ客に伝えるため、地域に精通した地域在住の通訳案内士を活用できないかと思っている。



演題：『外国船再開に向けた状況と世界の状況』

講師：シルバーシー・クルーズ

日本・韓国 支社長 糸川 雄介 氏

要旨：今年4月に日本国際クルーズ協議会が設立された。日本における国際クルーズの再開、今後の復活、拡大を地方創生と共に進めたい。シルバーシー・クルーズでは、ギリシャ、ガラパゴス、アイスランド、アラスカで、国内クルーズが再開している。コロナ前は寄港地側からのポートセールスによって寄港していたが、船社側の感染対策をこまめにお話させていただくことで、クルーズ船を受け入れていただく形になっている。地元の方々にクルーズの安全安心に対して理解していただくことを日本国際クルーズ協議会としても協力させていただく。



カンファレンスの様子

1-2. カンファレンス（第2回）

- 1) 日 時 令和3年11月25日（木） 15:00～17:00
- 2) 会議方式 web 会議方式
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 41名
- 4) 内 容

東北のクルーズ振興を目的として、コロナ禍における安心で安全なクルーズ寄港の再開に向け、クルーズ業界を取り巻く諸情勢や船社や関係者による安全対策等について、9月15日の開催に続き、本年度第2回目の講演及び意見交換等を行った。

(株)MSCクルーズジャパン区氏、(株)ジャパネットサービスイノベーション荒木氏と簗原氏からコロナ禍におけるクルーズの状況や今後の見込みなどを外国船社とチャータークルーズを行う旅行事業者の立場から講演いただいた後、外国船社の外国でのクルーズの運航状況やコロナ禍におけるクルーズ運航に向けた取り組みなどについて、意見交換・情報交換を行った。

演題：『MSCクルーズのコロナ後の現状の配船と将来の計画』

講師：(株)MSCクルーズジャパン

営業部長 区 祥誠 氏

要旨：MSCは現在、全19隻中13隻が再開し、定員数の85%の乗客を乗せている。昨年と今年で延べ60万人以上が乗船。来年は全19隻が運航予定。MSCでは、WHOや医師からの承認を受けたさまざまな感染対策により乗客が安心できるクルーズ環境整備を実施し、安心安全なクルーズ運航を進めている。来年は日本発着クルーズの運航も計画しており、MSCベリッシマの配船計画もあるところ。ベリッシマは最新の設備が備わっており、日本に寄港する中では最大級の17万トンクラス。来年は、ぜひ、東北でもベリッシマを見てもらいたい。

また、国際的に取り組む地球環境問題においても、2050年までにLNGエネルギーによるクルーズ客船を造船する計画もあり、二酸化炭素等の排出も極限まで抑えるまで、環境に配慮した目標を設定している。



演題：『ジャパネットが目指す三方よしのクルーズ事業』

講師：(株)ジャパネットサービスイノベーション

クルージング企画戦略部 シニアリーダー 荒木 辰道 氏

旅行ツアー企画戦略部 シニアリーダー 簗原 一隆 氏

要旨：当社は、世の中の本当に良いものを見つけ、見つけてきたものをお客の視点で磨き伝えることを得意としている。東北地方の各地域には、有名どころ、おいしい食べ物など様々あるが、地元が気づいていない良いものがあると思うので、観光地として可能性のあるものを提案して貰えれば、見つけて磨いて、伝えていきたい。



2019年はMSCのクルーズ船のチャーターを6回行い、約4万人に乗船いただいたが、2020年は5万人に乗船頂く計画であったが、中止になった。2022年は、是非ともクルーズ事業を再開したいと考えている。

クルーズ船受入にあたっては、観光・港湾関係者だけではなく地域の観光地の皆様とも協議して、安心して安全な環境整備を進めていきたいと考えている。



カンファレンスの様子

2. 総会

- 1) 日 時 令和4年1月31日(月) 13:00~14:15
- 2) 会議方式 web 会議方式
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 42名
- 4) 内 容

令和3年度の東北クルーズ振興連携会議の活動報告と東北クルーズ振興連携会議の規約改正と令和4年度の活動方針が審議され承認された。

また、(株)カーニバル・ジャパン堀川氏より、外航クルーズの再開に向けた講演を頂き、意見交換を行った。

5) 次 第

(1) 開会

(2) 挨拶 国土交通省 東北運輸局 海事振興部長 佐藤 聡

(3) 座長挨拶 東北経済連合会 小野 晋

(4) 議事

1) 報告事項

令和3年度活動報告について

2) 審議事項

東北クルーズ振興連携会議規約改正(案)について

令和4年度活動方針(案)について

(5) 講演

・外航クルーズ再開に向けて

(株)カーニバル・ジャパン 代表取締役社長 堀川 悟 氏

(質疑・意見交換)

(6) 閉会

6) 開会挨拶（要旨）

- 国土交通省 東北運輸局 海事振興部長 佐藤 聡



東北地域へのクルーズ船の寄港状況は、令和元年には過去最高の91回を記録したが、令和2年は96隻の寄港予定がすべて中止となった。令和3年には、大々的な歓迎セレモニーは行われなかったものの、4月と11月に5隻の入港があった。令和4年度は4月から6月にかけて飛鳥Ⅱ

や、ぱしふいっくびいなすの東北への寄港の計画があり、今後のクルーズ復活に向けて大きく期待をしている。新型コロナが一日も早く終息し、クルーズ船の寄港数の増加により、東北地方の活性化が図られることを祈念している。

7) 座長挨拶（要旨）

- 東北経済連合会 常勤顧問 小野 晋



東北クルーズ振興連携会議は、今年で6年目を迎える。残念ながらこの2年間は、外航船の寄港が実現していないが、クルーズ関係者の皆様と何度となく勉強会を開催するなど、今後へ向けた取り組みをしてきた。例えば、広域的なバス手配の課題解決に向けて、ジャパネットサービスイノベーションと東北運輸局が話し合いをする場を設けるなどクルーズ振興に向けて

の取組が一つずつ進んでいるところ。2022年度の外航船の寄港予約状況を見ると、夏から秋にかけて20回ほどの予約が確認できている。日本は外航船の寄港はまだまだ厳しい状況にあるが、海外では全体の約75%が再開されている。外航クルーズが再開した時に、受入地域がコロナ前よりも魅力的になっていることが一番だと思っているので、関係者と知恵を絞りながら取り組んでいきたい。

8) 議事 (概要)

○ 国土交通省 東北地方整備局

クルーズ振興・港湾物流企画室長 加賀谷 宏基 (事務局)



事務局より令和3年度の取組として、クルーズ船社等との2回のカンファレンス、中国発着クルーズの意見交換、HPによる情報発信の報告があった。また、東北クルーズ振興連携会議の規約改正と、令和4年度の取組方針 (カンファレンス、商談会、感染症に関わる情報交換、先進地視察等)

について、審議し承認された。

9) 講演 (要旨)

○ (株) カーニバル・ジャパン 代表取締役社長 堀川 悟 氏



日本国際クルーズ協議会は、外国籍クルーズ船による日本発着・寄港を活発化し、地方創生に寄与することを目的とした取組を行っており、外航クルーズ再開に向け、国土交通省などの関係者と調整を進めている。クルーズ船社は常に乗客乗員、全ての寄港地の皆様の安心と安全を最優先に考え

運航していく。東北は、日本発着を行う外国船において人気のある寄港地なので、今後も良い関係性を築いていきたい。外航クルーズにおける旅行者は、その土地でしか経験できないもの、観光客向けではない本物の体験、何かを学ぶことができる有意義な時間、心で感じ心に訴えかけるものがある、特別感のある体験を求めている。今後、東北のクルーズに係わる取組に期待しており、一緒に考えたい。